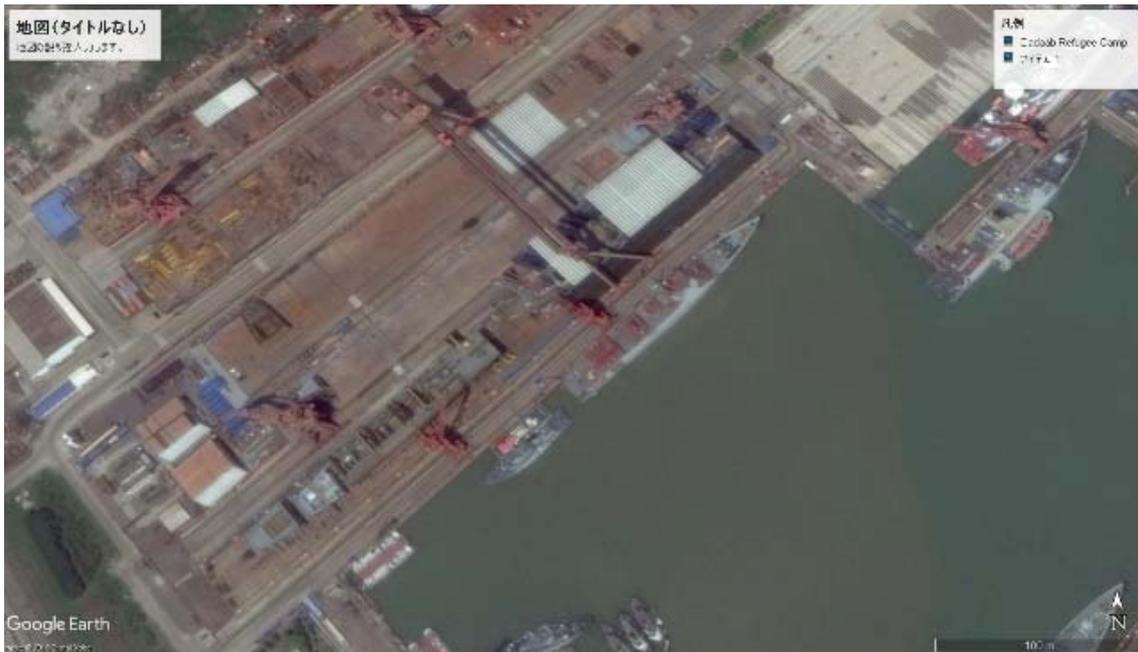


中国海軍ニュース：中国は、まもなく 2 艘目の国産空母建造に着工する
漢和防務評論 20180406(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

カタパルトを搭載する中国の 2 艘目の国産空母はまもなく着工することです。
KDR は、消息筋からの情報と衛星写真を対比し、この夏までに着工されるであろうと予測しています。
設計図はすでに昨年 8 月に完成しているので、工場内ですでに分割建造が始まっているものと考えられます。
大きなドックは遮蔽物（風雨よけ）で覆われるようです。
船体全体の組立が始まれば、隠しようがないので逐一進捗状況が分かるものと思います。



上海長興島江南造船所 3 号ドック (Google)

KDR 上海、北京、香港平可夫報道

KDR が消息筋からの情報及び衛星写真を対比して確認したところ：上海の造船所がまもなく 2 艘目の大型国産空母の建造に着工することがわかった。着工は今年の夏までには始まるであろう。衛星写真には、上海長興江南造船所の 3 号ドックで大型船建造のため改修工事が行われている状況がはっきりと写っている。これ以前に、2017 年 8 月、権威筋が KDR に次のように述べた：空母の設計図はすでに完成し、造船所に送った。このため江南造船所のドックの改修工

事が急がれている。1000名に近い工員が秘密保全の誓約書に署名した。工場内へは携帯電話の携帯も認められない、と。

KDRの推測では、分割建造の部分は、工場内部で行われているであろう。KDRは、これらの施設の改修について具体的に細部について掌握している。まず最初に内部の改修状況を見る。江南造船所は、今年の第一四半期に3号ドック付近に移動式の覆い（風雨を避けるためのもの）を設置した。空母建造時の建造物の運搬物の露呈を遮蔽するためであろう。覆いの長さは375乃至392Mもある。この覆いの設置工事は入札方式を採用したという。この覆いの大きさから見ると、この中国で3艘目の空母は、大連で建造された空母やワリヤグ（遼寧）に比べ、より大きいと思われる。カタパルトを採用したのは明らかである。設計担当グループは相当大規模で、グループごとに設計担当部位が指定されている。したがって消息筋は、カタパルトが蒸気式か電磁式かは掌握していなかった。KDRとしては：実験のため、同時に両種のカタパルトが搭載される可能性がある、と考える。KDRは、新型空母が48機の戦闘機、すなわち海軍航空兵の2個飛行団を搭載するものと理解している。大連空母に比べまるで2倍である。もしHZ-20型多用途ヘリの搭載数を減らせば、戦闘機の搭載数が増える可能性がある。このほか大連空母との最大の相違点は：江南空母が早期警戒機を搭載する点である。艦載早期警戒機は、現在は試験飛行段階にある。空母の分割部分をドックに運び入れるためには、上述の覆いの完成をまたねばならない。したがって、KDRは、2018年の第四四半期前後に、空母の分割部分がドックに運び込まれる可能性がある、と考える。

再び衛星写真を見る。11月の3号ドックの写真を見ると：以前に行われていた民用船舶の建造はすでに完了し、ドック全体が空になっている。同ドックは、改修の真っ最中であり、延長が図られている。元の長さ589Mを620Mに延長（衛星写真上での測定であり、正確ではない）している。底の部分が強化され、大型のガントリークレーンが320M近く延長されている。覆いの建設はまさに始まろうとしている。

上述の改修状況から見ると、江南空母は、通常動力型のような。江南長興造船所には核動力船舶建造の関連施設は見られない。かつてウクライナでソ連の3艘目の核動力空母が建造された時には、造船所には相当大きな施設が建設された。

以上